

土木広報センター報告

令和6年度土木の日および
くらしと土木の週間 報告

コミニケーション部門 主査理事

小山 宏（フエロー会員 東日本旅客鉄道（株）常務執行役員 建設工事業部担当 大規模切換工事担当）

土木広報センター センター長

小松 淳（正会員 日本工営）ビジネスパートナーズ（株）経営管理本部 チーフエンジニア

11月18日の「土木の日」から続く土木学会の創立記念日である11月24日までの1週間を「土木の日」および『くらしと土木の週間』として、土木学会本部・全国8支部では、一般の皆さまを対象とした各種イベント、活動を展開しております。令和6年度は、全国規模で企画・実施され、盛会のうちに終了しましたことをここに報告いたします。

1987年11月18日に「土木の日」を制定してから、37年を迎えました。各支部や各関係団体の多大なご協力を賜り、「土木の日」が全国的に浸透してまいりました。土木広報センターとしまして、一般の方々に社会資本の重要性を認識していただけるよう継続していく所存です。今後とも多くの方々のご理解やご

協力を賜りますようよろしくお願い致します。また、ご尽力いただきました多くの皆さま方に心からお礼申し上げます。

本 部

土木学会本部では、関係団体のご協力を賜り、「土木の日」および『くらしと土木の週間』期間を中心に、各メディアへの情報発信、「土木の日ロゴマーク」の活用、土木の日関連行事の開催など、各種取り組みを実施した。

メディアへの情報発信として、スポーツ紙への「土木の日」広告掲載（イラスト：漫画家 羽賀翔一氏）、建設紙への「土木の日」会長挨拶文の掲載、SNSを用いた発信などを行った。



オープニングセレモニーの様子（「土木の日パネル」と共に撮影）

また、「土木の日ロゴマーク」を用いたフライヤー、パネルの制作、土木の日グッズ（ステッカー、風船など）を積極的に配布した。

土木の日関連行事としては、本年度も「土木コレクション」を開催した。土木コレクションでは、土木界が保有する歴史的資料や図面、写真など、普段目にすることができない各種コレクションを展示、公開している。昨年度に続き、新宿駅西口広場イベントコーナーで開催し、11月21日（木）から23日（土）の3日間に約4万7000人が来場した。初日の11月21日（木）には、オープニングセレモニーを実施し、関係者や報道機関を含め、約120名が参加した。



各コンテンツを鑑賞する人たち

今回の土木コレクションでは、「リニア中央新幹線・東海道新幹線」「TEC-ORCE・能登半島地震での活動状況」「首都高速道路・日本橋区間地下化事業」「新宿駅」を主たるコンテンツとして展示、公開した。

コンテンツの一つ目「リニア中央新幹線・東海道新幹線」では、東海道新幹線開業60周年の節目に、歴史とともに中央新幹線の胎動を感じる展示とした。この展示では、東海道新幹線のバイパス機能の確保や3大都市圏（首都・中京・近畿圏）の一体化によるスーパー・メガリージョンの形成が期待されているリニア中央新幹線の土木工事を、写真や動画、模型を用いて詳しく解説した。また、昨年大好



「東海道新幹線」特大ファサード



「土木コレクション2024」特大ファサード



大人から子どもまで楽しむ様子



カプセルトイを回す佐々木会長

評だった特大ファサードは、歴代の東海道新幹線の車両を並べた貴重な写真を用いてリニョアルしたことで、多くの来場者が記念撮影を行っていた。

二つ目は「TEC-IFORCE・能登半島地震での活動状況」である。大規模な自然災害が発生した場合に派遣される国土交通省緊急災害派遣隊「TEC-IFORCE」は、被災状況の迅速な把握、被災の発生および拡大防止、被災地の早期復旧などに取り組み、地方自治体など関係機関を支援している。2024年1月1日に発生した能登半島地震でのTEC-IFORCEの活動状況をまとめたパネルや、災害現場で実際に使われているドローンの展示を行なった。一般報道では

見ることができない貴重な支援活動の写真に多くの人が足を止めていた。

三つ目の「首都高速道路・日本橋区間地下化事業」は、東京・日本橋川の上空に架かる首都高速道路を地下化する事業を中心に紹介した。1963年の開通から60年以上都心部の交通を支え続けてきた高架橋を撤去、地下に新たなトンネルを構築する壮大な事業をパネルや模型を使って詳細に解説した。来場者は熱心に事業者の説明に耳を傾けていた。

四つ目の「新宿駅」の展示では、土木コレクションの会場でもある新宿駅で進められている「新宿グランドターミナル構想」についてパネルで紹介した。1885年の新宿駅誕生から新路線の開業、駅施

設の拡張などを経て、現在では世界一の乗降客数を誇る巨大ターミナルのこれまでの変遷と新たな構想に、普段から新宿駅を利用している来場者は、期待を寄せている様子だった。

会場デザインは、新宿での土木コレクションのテーマカラーである黄色で統一し、災害復興や現在進行中の事業の展示に合わせ土木が旗振り役になって未来を切り開いていくという意味をこめ、旗のデザインを施した。会場内ではアンケート回答者へのグッズ配布の仕掛けとして展示コンテンツの写真を用いたカードを排出するカードマシンと、ドボコレの恒例となったカプセルトイが注目を集めた。さらに前回よりパワーアップした模

型の中を走る電池式鉄道玩具の仕掛けも注目を集めていた。

なお、本年度の土木コレクションもこれまでと同様、東京都建設局との共催であり、「東京橋と土木展（東京都建設局主催）」との同時開催であった。「東京橋と土木展」では「橋の魅力を知る」をテーマに、江戸や明治の橋を描いた浮世絵の展示や、隅田川橋梁群のライトアップ写真、橋梁の模型や設計図など、さまざまな展示を行なっていた。

今後も土木コレクションへの来場者の皆さまとの交流の経験を生かし、より多くの人に土木の魅力を伝え、土木をより身近に感じていただけるよう、さまざまな企画を展開していきたい。

北海道支部

北海道支部では札幌、北見、苫小牧、室蘭、函館において、関係機関の協力のもとに「土木の日」関連行事を実施した。

7月30日には「親子で行く！2024土木の現場めぐりバスツアー」を開催した。豊平峡ダム↓雁来排水機場・雁来河道掘削工事↓創成川水再生プラザ↓道央圏連絡道路と盛りだくさんの普段見ることのできない現場に参加者に体感していただいた。

さらに11月17日・18日にはチカホにて「イブニングシアター」、11月18日には選奨土木遺産認定書授賞式・土木の日記念講演会が札幌市内のホテルで開催された。

記念講演会では、学生や一般の方たち



記念講演会「北海道ボールパークFビレッジ：ファイターズの球場を起点としたまちづくり」



親子で行く！2024土木の現場めぐりバスツアー

も多数来場され2023年に開業した北海道ボールパークFビレッジのプロジェクト概要やコンセプト、開業後の運営状況や将来の展望について「北海道ボールパークFビレッジ・ファイターズの球場を起点としたまちづくり」と題して(株)

ファイターズスポーツ&エンターテインメントの小川太郎氏に講演いただき、質疑応答も盛んに行われFビレッジへの関心の高さがうかがわれた。

また、各地区では、大学、高専にご協力いただき、さまざまな行事が開催された。一例として、北見秋祭で、「土木の日」PRイベント、苫小牧高専「現場見学会」、室蘭地区「知利別川環境学習体験フェスタ2024」、函館高専では「橋をつくってみよう」など、工夫を凝らした行事を行っている。

東北支部

土木学会東北支部では、「土木の日特別行事」の一環として2004年度より、東日本大震災・自然災害をテーマとして「防災に関するシンポジウム」を開催している。

本年度は、2月28日(金)に東北大学川内南キャンパス文科系総合講義棟2階第1講義室(経済学部)で、「防災に関するシンポジウム——令和6年東北豪雨

水害調査団報告会と防災への提言——」として開催した。今回はじめて、東北支部技術研究発表会と同日・同所での開催であった。

シンポジウムでは、はじめに令和6年東北豪雨水害調査の概要説明を川越清樹先生(福島大学共生システム理工学類(生命・環境学系)教

授)が行い、つづいて「最近の東北における大雨のメカニズムと気候変動の影響について」を平賀優介先生(東北大学大学院工学研究科助教)、「最近の秋



防災に関するシンポジウム

田県における水害について」を渡辺一也先生(秋田大学大学院理工学研究科准教授)、「令和6年7月秋田・山形豪雨にお

ける流木災害(山形県)について」を小森大輔先生(東北大学グリーン未来創造機構特任教授)が報告し、総括を風間聡先生(東北大学大学院工学研究科教授)が行った。限りある時間の中で参加者とともに多くの質疑応答が展開され、参加者には土木に関する関心が高められた機会となった。

また、9月4日・6日の全国大会では、大会テーマ「自然とくらしの奥深き風景をつくる土木へ」に沿って、「土木」の取り組みを紹介したパネル展を開催し、現在もウェブサイトにて公開している。(https://www.jsce.or.jp/branch/tohoku/info/taikai2024/panel/index.html)

関東支部

関東支部では、関係機関の協力のもとに「土木の日」の関連行事を実施した。

現場見学会は、「東名高速道路（特定更新等）所領橋他2橋床版取替工事」および「東名高速道路（特定更新等）酒匂川橋他2橋床版取替工事」の現場を見学し、担当会社による床版取替工事工法の違いを知ることができた。

また、土木技術のすばらしさを子どもたちに紹介するための親子見学会では、「王子給水所（仮称）配水池築造工事」と「R4圏央道上蛇高架橋上部その1工事」



親子見学会の様子（R4圏央道上蛇高架橋上部その1工事）



「土木のある風景」写真コンテストカレンダー

を見学。普段乗ることのない重機に乗り、参加者は楽しそうに写真を撮っていた。

工事工法の模型実験にも、目を輝かせて見入っていた。その他にも現場の担当者の方は、子どもたちが喜ぶ体験をたくさん用意してくださり、充実した見学会となった。今後も土木の魅力が伝わる楽しい見学会を企画していきたい。

本年度も会員交流促進の一環として「土木のある風景」写真コンテストを12月2日より募集を開始した。3月の関東支部技術研究発表会で会場展示し、ご来場の方からの投票でそれぞれの賞が決定される。入賞作品は、カレンダーおよびウェブサイトに掲載される。

また、関係団体にご協力いただき「技術研究所見学会」を実施し、近所の小学校の児童に建設業の役割や新技術開発の取り組みなど、土木技術に触れて楽しい時間を共有した。

関東支部には、新潟・山梨・群馬・栃木・茨城の五つの分会があり、各分会において記念講演会（動画放映含む）、土木遺産の見学会など各種イベントを実施し、土木工学のイメージアップと市民生活との関係の周知に活発に取り組んでいる。

中部支部

中部支部では、関連行事である

「親子ふれあい見学会」と「市民見学会」を11月に実施した。これらの見学会の目的は、土木に対する一般市民の関心と親しみを深めてもらい、土木施設の役割と必要性を理解してもらうことである。

「親子ふれあい見学会」では、「中部の空の玄関口を探検！」というテーマで愛知県の中部国際空港（ターミナルツアー、滑走路見学）を抽選で選ばれた26名にご参加いただいた。普段入ることができない場所を見学できたこともあり、アンケートでは「とてもよかった」「よかった」で100%の回答を得て、大好評だった。

また、「市民見学会」では、「三重県の旬の現場を見て、土木について学ぼう！」というテーマで三重県の四日市港霞ヶ浦地区（杭打ち作業の設置から打設完了まで



親子ふれあい見学会（中部国際空港）



市民見学会（四日市港霞ヶ浦地区、東海環状自動車道）

スカーション（体験型見学会）の開催、さらに生涯学習の場などに講師を派遣する出前講座や選奨土木遺産のパネル展示などを行い、土木および土木学会の認知度向上と将来の担い手の育成に努めている。

を見学）、東海環状自動車道（田切川橋施工現場見学）を13名の親子にご参加いただいた。「土木事業への理解が深まった」「普段何気なく利用しているインフラへの関心が高まった」といった声を多くいただき、土木に関心を寄せてもらえる一助になったと考える。

中部支部では、この他に中部地方の大学・高専の土木系学生に土木事業の魅力伝えることと、土木技術者を目指す学生支援を目的とした土木技術者と学生の交流会や、教職員や教員を目指す学生および理工系学生の団体を対象としたエク



2024年度「土木の日」ポスター

関西支部

関西支部では、「土木の日」および「くらしと土木の週間」の活動として、「土木の日」関連行事関西地区連絡会の主催でさまざまな企画（連絡会行事）を実施した。「土木の日」ポスター制作では、「土木がかなえる明るい未来」まち・道・鉄道・空港・エネルギー」のテーマで図案を募集し、全国から計167作品（子供部門108作品、一般部門59作品）の応募があった。選考の結果、永砂美来さん（大宅小学校）の作品が最優秀賞となり、土木の日関連行事の広報ポスターに活用した。

「土木の日」コア行事のFCCフォーラムでは、「道マニア四天王が語る！道と人をつなぐ未来の風景」共に語り、共に創る、新たな道の可能性」と題したイベントを開催した。



2024年度「土木の日」ポスター

き、楽しみながら土木について学ぶことができた。この他、「かわい
い土木 見つけ旅（講演者…三上美
絵氏）」、「吊橋と木のはなし」
空中で見つめる構造美と自然の調
和」（講演者…山脇裕氏）」など
の多様な話題を提供し、いずれも
盛況のうちに終了した。



土木カードゲーム『ドボ・シティ』で遊んでみよう

全国から「道マニア四天王」をお招きして、酷道、標識、廃道、高側道など、独自の視点で道への深い愛と楽しみ方を紹介いただき、日常生活では気付かない道の魅力を探索する機会となった。また、2010年より実施している「どぼくカフェ」企画では、2023年度会長特別プロジェクト「魅力ある土木の世界発信小委員会」とのタイアップで、「土木カードゲーム『ドボ・シティ』で遊んでみよう」と題したイベントを開催した。当日は小学生を含む多数の方にご参加いただき、楽しみながら土木について学ぶことができた。この他、「かわい
い土木 見つけ旅（講演者…三上美
絵氏）」、「吊橋と木のはなし」
空中で見つめる構造美と自然の調
和」（講演者…山脇裕氏）」など
の多様な話題を提供し、いずれも
盛況のうちに終了した。

中国支部

中国支部では、広島呉道路（クレアライン）呉トンネル建設現場を見学する、「夏休み親子見学会」を令和6年7月20日に実施した。

家の近くの工事だけど、関係者以外には入れないという工事現場。さらに、トンネル工事だとさらに謎に秘めたところである。普段では見られない大型の働く車を見て、触れて、試乗してみよう！とのタイトルで広報した。

参加者は工事現場の近隣からの参加で、呉ポートピアパークへ集合し、NE

XCO西日本より工事概要の説明後、トンネル班と残土海上運搬拠点班に別れて行動した。トンネル班は、バスで坑口まで行き、切羽まで歩き、普段では見ることでできないトンネル工事用の重機を見学した。硬い岩盤を削孔するドリルジャンボを見学し、掘削面をコンクリートで覆う吹付けロボットの操作体験をして、ゲーム機のように遠隔操作できる面白さを体験した。坑内では、現場の生産性と安全性の向上に向けた技術について見学した。残土



夏休み親子見学会の様子（呉トンネル建設現場）



展示（土木会館内）



優秀作品を掲載した2025年のカレンダー

海上運搬拠点班は、トンネルで排出された残土を集め、呉ポートピアパークに集め、海路を使って8・6km先の埋め立て地まで輸送することにより、地域住民に対する配慮やSDGsの観点からも利点があることを学んだ。また、無人で空撮するドローン飛行を見学し、ホイロローダーやミニバックホーに試乗し、最後にドローンによる記念撮影をした。

その他、第17回「身近な土木を描いてみよう！」図画コンクールも実施し、各地での表彰式や展示を行った。本年度は、これまで図画コンクールを実施しての効果を、全国大会で発表した。

四国支部

四国支部では「土木の日」関連行事を一般市民や小中高校生を対象に四国各地で実施した。

支部行事として、11月8日に高松市サンプールホール会議室において、「土木の日記念行事」を実施した。はじめに、本年度選奨土木遺産に選定された「瀬詰橋」（徳島県吉野川市）の管理者である徳島県の強靱化・安全対策室長を招き、認定書を授与し銘板を贈呈した。その後、東急建設（株）代表取締役社長の寺田光宏氏による演題「これまでの土木のかかわりと土木技術者の社会的役割」で特別講演を行った。11月14日から9日間、徳島県板野町の「あすたむらんど徳島」こ



選奨土木遺産認定書授賞式

ども科学館ギャラリィで、四国の土木コレクシオン&土木遺産パネル展を開催した。11月16日に一般公募した参加者64名に

よる、「大鳴門橋・僧津山トンネル見学バスツアー」を実施した。大鳴門橋ではアンカレージ内や管理用通路を通り、「渦の道」に合流するコーラスを見学した。徳島市の国道192号南環状道路の「僧津山トンネル工事現場」では、NATM工法について模型を使った説明を受け、施工のトンネル切羽現場を見て、建設機械の乗車体験をした。参加者からは普段接することのない土木施設、建設機械に触れ貴重な体験だったと伺った。

地区行事では、四国各県において小中学生、工業系高校、高専生を招いた現場見学会を実施した。また大学高専公開行事として、パネル展示や小中学生を対象として科学実験体験を実施し多くの参加をいただいた。



バスツアー（大鳴門橋）



バスツアー（僧津山トンネル切羽前）

西部支部

西部支部では、本年度も各地区でイベントが開催された。

福岡地区では、10月6日に国営海の中道海浜公園で「土木の日ファミリーフェスタ2024」が開催され、約4500人の来場者でにぎわった。

長崎地区では、「DOVOCフェア2024」として、11月10日に県内各地で現場見学会が、11月16日に長崎大学で「土木おもしろ体験隊」が、また、11月17日に佐世保市でパネル・模型展それぞれ開催された。

宮崎地区では、11月9～10日にイオンモール宮崎で「宮崎県「土木の日」パネル展」が開催された。

鹿児島地区では、11月23日に天文館びらもるなどで「土木フェスタ in びらもる」など



土木の日ファミリーフェスタ2024（福岡地区）

界に発信する会が第29回シンポジウム「沖繩における防災・減災 国土強靱化のあるべき姿」を開催し、154名の方々が参加された。



左：土木フェスタ in びらもる・天文館本通り2024（鹿児島地区）、右：沖繩の土木技術を世界に発信する会シンポジウム（沖繩地区）

